

《大町市》 大町市ボランティアセンター

〔センターの基本事項〕

所在地	〒398-0002 大町市大町1129番地 大町市総合福祉センター ハートピア仁科の里			
電話 FAX	0261-22-1501	0261-22-7071		
電子メール	—			
HPアドレス	—			
職員数	正規	1名	嘱託	1名
	臨時	—	その他	—
開所日と時間	平日 8:30~17:30 土日祝を除く			
情報誌	ボランティアニュース 年6回(奇数月)発行			
来所者数	—			

〔センターの運営方針・指針等〕

--

〔センターの拠点整備〕

活動場所の提供	<input type="radio"/>	社協が指定管理する「大町市総合福祉センター」内に『ボランティア室』を備え、当会に登録いただいたボランティアグループは無料で使用できる。
フリースペースの設置	—	—
資機材等の貸出	—	—
福祉体験器具等の貸出	<input type="radio"/>	無料
登録グループの専用ポストの設置	—	—
情報掲示板・チラシ提供スペースの設置	—	—

〔ボランティアセンター運営委員会〕

組織の有無	休会	規約	有
名称	大町市ボランティアセンター運営委員会		
概要	平成16年12月から施行されている「大町市ボランティアセンター運営規程」の中に、運営委員会の規程が盛り込まれている。		
委員構成	ボランティア団体、学識経験者及び福祉団体から20名以内の範囲で、市社協会長が委嘱する。		
事業への関わり	—		
工夫点	—		
課題点	現在、委員会は減退している状況であり、平成23年度再編成し、運営委員会を再開する。		

〔ボランティア連絡協議会〕

組織の有無	休会	規約	無
名称	—		
協議会構成	—		
工夫点	—		
課題点	過去、連絡協議会が存在していたが、役員等が負担になると休会状態となってしまった。しかし、ボランティアから『ボランティア相互の交流を図りたい』との意見もあり、ボランティア相互の交流の場を目的に。		

〔財源〕

人件費	独自財源	共同募金	委託料・補助金	民間助成金	その他
	—	—	○ 行政からの補助金	—	—

事業費	独自財源	共同募金	委託料・補助金	民間助成金	その他
	○ 社協一般会費	○	○ 行政からの補助金(大町市福祉事務所)	—	—

〔事業計画・センター運営等について〕

○事業計画について 毎年度の事業計画について、どのように計画を立案していますか？		担当部署・担当職員間で事業計画を立案している。
○センターにおける中長期計画について 独自の中長期計画・アクションプラン等を作成していますか？		—
○アドバイザー等について センターの運営や事業実施に関して、アドバイザー等の助言者はいますか？		—
○社協VC以外の中間支援機関について 社協が運営するVCとは別に、他団体が運営する中間支援機関が地域内にありますか？		—
○連携するNPOや関係機関について VCの事業・運営において連携・協働しているNPOや関係機関等がありますか？		
連携・協働先		連携・協働内容
—		—
—		—
—		—
○センターの強みと弱みについて		
《強み》 市内小中学校及び高校との連携が強く、福祉教育が充実している。		《弱み》 職員体制（専任の正規職員が不在）

○VC見取り図

○他市町村社協ボランティアセンターについて センター運営や事業実施に関して、他市町村社協VCに聞いてみたいことや知りたいことなど

ボランティアセンターの重点事業について

事業名	大町市ボランティアリーダー研修会
目的	<p>ボランティア活動は、毎日の生活の中で身近で誰にでもできることがたくさんあります。また、福祉のまちづくりをすすめるため、地域で暮らしていくためのボランティアのはたす役割は、地域交流や地域づくりの担い手としてますます多様化してきています。</p> <p>そして社協ボランティアセンターとして、活動情報を提供することや、各グループ間の情報交換の場をつくることも大切です。そこでコミュニケーションをとるきっかけとなり、地域交流会時での活用を目的にレクリエーション講習を開催しています。</p>
開催頻度	年1回
内容	<p>レクリエーション協会インストラクターを講師に迎え、身近なもので楽しめるレクリエーション講座を開催。</p> <p>また、地域や各団体のボランティア活動の中で、対象者とコミュニケーションをとる手法について、レクリエーション講座の中で研修します。</p>
対象者	登録ボランティア団体、小地域福祉ネットワーク、一般市民
企画のポイント 事業成果	<p>ボランティア相互の交流</p> <p>講座の中身は、参加者が互いに交流を深める内容となっており、普段全く別の活動をしているボランティア同士の交流を深めることができる。</p>
参加者の声や その後の動き など	<p>早速、地域でレクリエーションを実践したいとの声が高く、最近ではボランティア団体だけでなく、一般市民としてデイサービスなどの在宅福祉事業所の職員も研修にきている。</p>

事業の様子

